

* 会堂復旧工事の進捗状況について

この度の大震災によって、特に大きな被害を受けました教会の会堂復旧工事につきましては、全国の皆様のお祈りに覚えていただき、第2期募金におきましてもその思いを表していただいておりますことを心から感謝いたします。被害を被りました各教会は、それぞれに置かれた場所によって状況が異なり、今後の見通しも祈祷課題も異なります。以下に、それぞれの状況をお知らせいたします。

●仙台教会

昨年10月中になされるはずであった礼拝堂の応急措置的な復旧工事は、大幅にずれ込んで今年の2月下旬になってようやく着手されました。しかし、この“応急措置的”工事は、私たちの想像をはるかに超える真にプロフェッショナルかつ見事な復旧工事となりました。それもそのはず、来日した正統長老教会（OPC）からのボランティアチームはプロの大工集団だったからです。

当初、亀裂が入ってはがれ落ちた礼拝堂壁面の漆喰をすべてはがした上に新しくボードを張って完了のはずだった工事は、思いがけない展開となりました。100年のベールをはがされて露わになった礼拝堂の柱が、予想以上に傷んだり歪んだりしていることが明らかになったからです。しかし、チームはそれら一つ一つの問題に迅速かつ適切に対処し、日曜を除いては休みも観光もなく、わずか二週間半で礼拝堂を見事に再生させました。その献身的な働きぶりにはただただ頭が下がりました。

私自身は、以前から予定されていた南アフリカ行きのために最初のチームの来日と入れ替わるように離日し工事の終了間際に帰国しました。この間、牧師不在の修築工事を（同時並行的に取り組んでいた3・11のコンサート準備とともに）役員を始めとする多くの教会員たちのサポートにより無事に成し遂げたことは、教会員にとっても大きな経験と自信になったことでしょう。また、週日の給食サービスや日曜ごとの交わりを通して、言葉の通じないボランティアの方々と身振り手振りでコミュニケーションできたことも、国境を超えた主にある交わりの素晴らしさを実感できたのではないかと思います。

こうして仙台教会の復旧工事の第一段階は、祝福の内に終わりました。今後、礼拝堂の天井や外壁、また付属の教室部分をどのように修築させるかが課題として残っています。引き続き、お祈りに覚えていただければ幸いです。（仙台教会牧師：吉田隆）

●石巻伝道所

石巻伝道所の復旧工事について、直接的責任を持つ者として説明させていただきます。何よりもまず被災から一年を経てもなお復旧工事に着手できていないことに対して、お祈りと献金をお寄せ続けてくださっています皆様に対し、中会の伝道委員会委員長としても大会議長としても深くお詫びを申し上げます。また、この間、まことにご不自由な生活を余儀なくされている白津先生御一家には大変申し訳なく思っております。

工事遅延の理由はいくつかあります。第一に、石巻市自体の復興計画が昨年の秋口まで定まらなかったことです。その後、現在地が居住地域であり続けること、教会至近の「蛇田駅」の位置の変更もないことが明らかになりました。遅延第二の理由は、石巻伝道の将来についての青写真がなかなか描けなかったことです。伝道委員会はこのために小委員会を設置し、白津教師と共に石巻伝道所の伝道・修築計画を作成し実行する体制を整えました。

ところが、この一年の被災地における建築ラッシュゆえに工事価格は高騰し業者や建築資材の確保も困難になりつつあります。小委員会は、仙台教会や山元町ボランティアセンター修築工事での優れた実績を示してくださった OPC ボランティアチームのお力を借りることを含め、尊い献金を有効に用いた最善の工事に可及的速やかに着手できるようあらゆる可能性を探っているところです。このために是非お祈りくださいますよう、心よりお願い申し上げます。（吉田隆）

●北中山伝道所

青く甦る自然に、季節の移り変わりを覚えます。震災から一年余りが経過しましたが、この間の皆様のお祈りと様々な援助に心からの感謝を申し上げます。

北中山伝道所は、牧師館と教会堂の二つの建物が繋がって傾斜地に建てられています。今回の震災で、教会堂側の地盤が約 10cm ほど沈下しました。当初は建物を切り離す案、新たな土地を探して新会堂を建てる案など、将来を見据えて多くの話し合いがなされましたが、建物耐震診断によりそのままの状態活動を継続する事が可能であるとの結果を得、現在に至っています。

会堂の傾き修正と地盤強化には、ダブルロック工法が用いられます。従来の工法に比べて、費用・工事期間も約半分で仕上がるそうです。地盤を上げる工法ではなく、セメント系の材料を注入して地盤を岩のように固め、建物が下がったり動いたりしないようにロック（鍵）をする、そのような新しい工法です。工事は 5 月中に着工の予定となっていますが、速やかな、また確かな工事がなされますよう、今後とも引き続きお祈りをお願いいたします。(坂本紀夫)

*ミッション協力協議会「のぞみセンター」開設式・オープンハウスのお知らせ

OPCを中心にアメリカからの奉仕団によって、津波の被害にあった歯科医院が見事に修繕されました。いよいよ、この「のぞみセンター」を通し、被災者の方々へのディアコニアが進展されようとしています。下記のように、ミッション協力協議会による、開設式・オープンハウスを挙行政致します。どなたも歓迎いたします。被災者の方々が一人でも多く、ご参加いただけますようお願いください。

5月5日(土) 10時～13時45分

第一部：10時～11時

開設感謝礼拝式

第二部：11時15分～12時

コンサート(合唱団)

12時15分～13時45分 立食パーティー(カフェ)

場 所：宮城県亶理郡山元町山寺字西頭無43-81

☎0223-35-6901

問合せ先 ☎052-895-6701 のぞみセンター理事 相馬伸郎

※大会執事活動委員会は、「ミッション協力協議会」にも協力して第二期募金から支援しています。

ミッション協力協議会は、日本キリスト改革派教会と宣教協力関係にある北米キリスト改革派教会・正統長老教会・大韓イエス教長老会高神派(南アフリカ改革派教会)によって構成されます。

* 東仙台教会 活動報告

(報告：東仙台教会 立石彰)

1. にじいろ楽習会

新年度のにじいろ楽習会が4月13日(金)からスタートしました。新しいスタッフを迎え、今後の活動のことをよく話し合いながら、元気に、楽しく、活動を再開させることができました。スタッフを送り出してくださった御家族や教会に心から感謝をいたします。

にじいろ楽習会は、これまで毎週(月)(水)(金)に開催してきましたが、5月からは(月)(水)の週2回に変更することにしました。これから野蒜・新東名地域に戻ってこられる方々や、すでにこの地域で生活しておられる方々の様々なニーズに応えるために、(金)(土)の二日間を用いたいと考えたからです。

さて、新年度のにじいろ楽習会も毎回30名前後の子どもたちが参加しています。人数の多かった6年生が卒業して4月からは少なくなると予想していましたが、震災後すぐに他県に避難していた家族が春休みに野蒜に帰ってきたり、これまで来ていた子どもたちが友達を連れてきたりして、新しいメンバーが増えました。新しく来ている子どもたちや、その御家族の方々との交わりが祝福されるようにお祈りください。また、5月19日(土)にはピクニックを計画しています。安全に楽しい時となりますようにもお祈りください。



休まずに来てくれる
ヒロト君(小2)

【にじいろ楽習会の参加者の保護者の方から感謝のメールを戴きましたので、ご紹介いたします】



子どもキャンプの写真
(真生君と国安光先生)

いつも、ありがとうございます。子供が、帰りたくないというくらい、水曜日を楽しみにしています。水曜日しか学習会に行けませんが、子供がこんなに、幸せそうに、楽しいと言っていました。

公園がなくなり、遊ぶのも大変な所です。勉強だけでなく、外で遊べる楽しさが、子供にとっては嬉しいようで、塾とは違う学び場所になっています。にじいろ楽習会で、百点をとってきて、嬉しいようで、心身共に鍛えられているとおもいます。このような機会を与えてくださって、本当に、感謝しています。

今野和恵（真生の母）

2. 地域の方々へのチラシ配布

GW明けに、地域の方々や仮設住宅に住むの方々へのチラシ配布を計画しています。仮設住宅から戻って来られる方も増えており、泥だらけの家具を倉庫に放りっぱなし、という方も少なくありません。また「庭に埋もれている小さなガラスの破片などを拾いたい」という方も多くおります。そのような方々のために「お手伝いをします」という内容のチラシを地域に配布いたします。

さらにきめ細かく地域の方々に仕えて行くためのきっかけとなりますように、チラシを通して良い出会いが与えられますように、お祈りください。

3. 子供キャンプ報告

3月28日（水）～30日（金）に作並温泉にて、子供キャンプを行いました。45名の子供（野蒜小学校41、東仙台教会2、仙台カナン教会2）と19名の大人が参加しました。事故や怪我もなく、とても祝福されたキャンプとなりました。夜に1時間ほどの礼拝を行いました。子供たちが大きな声で賛美をしてくれました。

皆様のお祈りに心から感謝いたします。



4号棟の方々との昼食会

4. 仮設住宅の方々と共に

ひびき工業団地仮設住宅4号棟の方々と「昼食会」を行い、なかなかゆっくり話すことのできなかつた方々と楽しく時間を過ごすことができました。

月に二回行っている「おはなカフェ」では、今日（4月25日）、「カレーパーティー」を開催しました。昨日のうちに作っておいた3種類のカレー（普通のポークカレー、タイ風グリーンカレー、ビーフストロガノフ）を集まった20名の方々と一緒に食べました。食後には、簡単なゲームをやったり、歌（賛美歌も歌謡曲も）を唄ったりして楽しい時間を過ごしました。

一緒に食事をするような企画だと、普段はなかなか来ないお父様方も出て来てくれるので、今後も食事関係の企画を継続していこうと考えています。5月9日（水）には、金沢伝道所の漆崎先生が「たこ焼き機」を持って応援に来てくれるということで、仮設住宅の方々と一緒に楽しみにしています。良い交わりが今後も継続出来ますように、引き続きお祈りください。

(写真・メール・お名前は、本人や保護者の許可を頂いて掲載しています)



<今月の御言葉>

「なぜ、この人を困らせるのか。わたしに良いことをしてくれたのだ。」
(マタイによる福音書 26 章 10 節)

「極めて高価な香油」を惜しみなく主イエスに注ぐ女性。彼女を、弟子たちは非難します。「なぜ、こんな無駄使いをするのか。高く売って、貧しい人々に施すことができたのに」。この非難は、極めて当然のように思われます。しかし、主は言われます。「なぜ、この人を困らせるのか。わたしに良い（美しい）ことをしてくれたのだ」。この油注ぎの真の意味を理解していたのは、弟子たちでも、女性自身でもありません。自らの十字架の死が迫っている「神の時」をご存知の主イエスだけでした。「この人はわたしの体に香油を注いで、わたしを葬る準備をしてくれた」と。

私たちの行為に、真の意味を与えるのは、主イエスです。神の御心に対する人間の無知と過ちをも超えて、神の偉大な無償の愛と人間のささやかな愛が響き合うその所に、神御自身が「神の国」を開いて行かれます。

「わたしたちの内に働く御力によって、わたしたちが求めたり、思ったりすることすべてを、はるかに超えてかなえることのおできになる方に、教会により、また、キリスト・イエスによって、栄光が世々限りなくありますように、アーメン。」(エフェソ 3:20~21)

(大会執事活動委員会 西 牧夫)

